

ESD環境プログラムを終えて

- このプログラムが始まる前は、「環境教育」と聞いて「何だか 難しそう…」という印象や、自分とは遠いもの、どこかで特別な人たちが何か難しいことをしているもの?…と感じていた児童も見られました。しかし授業が進むうちに、自分たちが日々当たり前のように実践している中にも環境を守る活動がたくさん含まれており、何も特別なことでなくて自分にできることがたくさんあるのだということに気付き始めてきました。
- プログラムの内容が、始めは子どもたちが興味を持つゲームを通しての学習から入り、それを通して今世界で起きている現状を知り、それに対して自分たちができることは何かを考えていく、そして最後は、環境保全の取り組みをしている方の実際のお話を聞いたり活動を見るところということで、非常にスムーズに子どもたちの学びを深めていくことができたと思います。
また、毎時間振り返りを書かせることで、環境についての自分の考え、今自分にできることは何なのか、さらにこれからどんなことをしていきたいのかということが、徐々に明確化してきました。最終的には、環境保全に対する児童一人一人の主体的な考えを持つことができたと考えております。
- さらに、あきた地球環境会議の福岡さん、石黒さんを始め、大学の先生、留学生の方々、動物園の園長先生など、いろいろな方々とお会いしてお話をお聞きする機会を得たことにより、子どもたちの世界も大きく広がり、職業観・人生観もかなり変わってきたように感じています。
各時間ごとに、心に強く響く言葉がたくさんあり、環境について考えるだけでなく、これからの生き方を深く考える機会を与えていただきましたし、グローバルな視点で物事を考えていくという姿勢も育てていただいたと思っております。
- なにより一番嬉しく思っていることは、自分たちが先輩たちから引き継ぎ、地域の方々と一緒に当たり前のように続けてきた「イバラトミヨ保全活動」が、いかに大切に価値のあるものかということ、子どもたち自身が認識できたことでもあります。いわゆる『価値づけ』ができた、と感じております。
それによって、自分たちの活動により自信と誇りを持ち、さらに自分たちも責任をもって後輩たちに引き継いでいきたいという意欲が生まれました。
また、「自分の地域はイバラトミヨが生息できる環境である」ということのすばらしさを実感する機会をもつことで、地域を愛する気持ちがより強くなったように感じます。
- 今回、このような貴重な機会を与えてくださいました全ての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。